

第8表 300mbにおける風向別気温度数分布の特徴

風向	出現度数	標準偏差	気温の最高値(°C)	気温の最低値(°C)	歪度
N	—	—	—	—	—
NNW	—	—	—	—	—
NW	5	2.57	-48.5	-55.8	—
WNW	60	4.23	-35.3	-53.6	+0.114
W	367	4.48	-28.8	-53.9	+0.119
WSW	167	5.66	-25.9	-54.8	+0.257
SW	17	2.93	-40.8	-52.4	+0.111
SSW	2	0.15	-44.4	-44.7	—

で明瞭な左傾分布を示し、SWを除き、少しシャープな形で高温側に尾を引いている。

4. まとめ

最後に、まとめとして、風向別気温の特徴のおもな点を各高度を通して述べてみる。

まず、各年の風向別平均気温をみると、その最低値の風向は、300mbを除き、各高度ともNWが多く、また、最高値の風向は、高度により多少異なり、850mbはSSE、他の高度はWSW~SSWが多い。

風向別気温の統計期間における平均値については、前者は、850mbを除き、各高度ともNWで、後者は、700~500mbはSSWであるが、他の高度ではまちまちである。

また、風向別気温度数分布の特徴については次のよう

になる。まず、風向出現度数をみると、WおよびWSWは高度とともに増加し、特に、Wは、700mb以上では、最多風向となるが、他の風向は減少する。

風向別気温の最高値は、各高度とも、W~SWが高い。最低値は、高度により多少異なり、850mbと700mbでは、NW~Wが低い、500mb以上の高度では傾向が異なっている。

以上、館野を例とし、冬季の対流圏における風向別気温の統計的特徴が明らかにされた。さらに、他地点における風向別気温の調査や、気象学的機構のくわしい研究が必要であるが、これらについては次稿で述べることにしたい。

終りに、貴重な資料を提供して戴いた三島測候所および静岡気象台に厚く御礼申し上げる。

参考文献

- 五月女敬太郎, 山田 一, 1964: 館野における偏東風底面および偏西風極小面の統計的考察, 天気, **11**, 3~8.
 斎藤 昭, 1968: 富士山頂における冬季の風向別気温の特徴について, 天気, **14**, 213~217.
 斎藤 昭, 1969: 富士山頂における冬季の風向別気温の特徴について(2), 天気, **16**, 17~22.
 迎 正秋, 土屋 清, 久保木光照, 1969: 日本付近の大気の立体構造の統計的研究—その1, 冬季高層気象の統計, 天気, **16**, 396~400.
 気象庁, 印刷天気図。

気象研究ノート原稿募集について

気象研究ノート編集委員会

いまや公害問題が全球的な問題に進展し、環境破壊について科学技術のあり方が全面的に問われているときです。

環境科学としての気象学も自然災害によるものも含めて環境破壊とどのようにかかち合っていくべきか、果していまのままでよいのかの問題があらためて再検討されようとしています。

1970年代をひかえ、将来の気象学のあり方について会員諸氏の見解をひろく集め、気象学会の活動の前進を計りたいと考え、気象研究ノート編集委員会は下記により論文を募集するので奮ってご投稿下さい。

記

1970年代の気象学研究, 教育の位置づけ, 方向を始め気象業務の果す役割, 方向, 改善などについて学会員それぞれの立場からの主張, 提案を求めます。

締切 昭和45年11月30日

枚数 400字詰原稿用紙20枚以内

送付先 (〒166) 東京都杉並区高円寺北4-35-8

気象研究所内 川村 清